

関東信越厚生局長、殿

開設者名 山梨大学長 前田 秀一郎

特定機能病院山梨大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 23 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

| | |
|--------|------|
| 研修医の人数 | 45 人 |
|--------|------|

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職 種 | 常 勤 | 非 常 勤 | 合 計 | 職 種 | 員 数 | 職 種 | 員 数 |
|---------|------|-------|--------|-----------|-----|-------------|-----|
| 医 師 | 236人 | 135人 | 351.2人 | 看護補助者 | 48人 | 診療エックス線技師 | 人 |
| 歯 科 医 師 | 3人 | 7人 | 9.0人 | 理学療法士 | 7人 | 臨床検査技師 | 35人 |
| 薬 剤 師 | 32人 | 0人 | 32.0人 | 作業療法士 | 3人 | 衛生検査技師 | 人 |
| 保 健 師 | 人 | 人 | 人 | 視能訓練士 | 1人 | その他 | 人 |
| 助 産 師 | 24人 | 2人 | 25.1人 | 義肢装具士 | 人 | あん摩マッサージ指圧師 | 人 |
| 看 護 師 | 464人 | 19人 | 477.3人 | 臨床工学技士 | 6人 | 医療社会事業従事者 | 4人 |
| 准 看 護 師 | 人 | 人 | 人 | 栄 養 士 | 3人 | その他の技術員 | 11人 |
| 歯科衛生士 | 1人 | 2人 | 2.6人 | 歯 科 技 工 士 | 1人 | 事 務 職 員 | 86人 |
| 管理栄養士 | 4人 | 0人 | 4.0人 | 診療放射線技師 | 28人 | その他の職員 | 64人 |

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

| | 歯 科 等 以 外 | 歯 科 等 | 合 計 |
|--------------|-----------|-------|---------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 473.7人 | 3.7人 | 477.4人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 1185.4人 | 64.2人 | 1249.6人 |
| 1日当たり平均調剤数 | 742.3剤 | | |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|--------------------------|-------|
| 自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法 | 2人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾患名 | 取扱患者数 | 疾患名 | 取扱患者数 |
|--|-------|---|-------|
| ・ベーチェット病 | 23人 | ・膿疱性乾癬 | 2人 |
| ・多発性硬化症 | 56人 | ・広範脊柱管狭窄症 | 5人 |
| ・重症筋無力症 | 62人 | ・原発性胆汁性肝硬変 | 25人 |
| ・全身性エリテマトーデス | 93人 | ・重症急性膵炎 | 11人 |
| ・スモン | 3人 | ・特発性大腿骨頭壊死症 | 8人 |
| ・再生不良性貧血 | 27人 | ・混合性結合組織病 | 8人 |
| ・サルコイドーシス | 16人 | ・原発性免疫不全症候群 | 3人 |
| ・筋萎縮性側索硬化症 | 39人 | ・特発性間質性肺炎 | 3人 |
| ・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 80人 | ・網膜色素変性症 | 34人 |
| ・特発性血小板減少性紫斑病 | 50人 | ・プリオン病 | 4人 |
| ・結節性動脈周囲炎 | 18人 | ・肺動脈性肺高血圧症 | 0人 |
| ・潰瘍性大腸炎 | 67人 | ・神経線維腫症 | 4人 |
| ・大動脈炎症候群 | 7人 | ・亜急性硬化性全脳炎 | 0人 |
| ・ピュルガー病 | 12人 | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群 | 0人 |
| ・天疱瘡 | 13人 | ・慢性血栓塞栓性肺高血圧症 | 0人 |
| ・脊髄小脳変性症 | 57人 | ・ライソゾーム病 | 0人 |
| ・クローン病 | 34人 | ・副腎白質ジストロフィー | 0人 |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎 | 0人 | ・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 0人 |
| ・悪性関節リウマチ | 1人 | ・脊髄性筋萎縮症 | 0人 |
| ・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病) | 88人 | ・球脊髄性筋萎縮症 | 8人 |
| ・アミロイドーシス | 1人 | ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎 | 7人 |
| ・後縦靭帯骨化症 | 26人 | ・肥大型心筋症 | 0人 |
| ・ハンチントン病 | 0人 | ・拘束型心筋症 | 0人 |
| ・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症) | 8人 | ・ミトコンドリア病 | 2人 |
| ・ウェゲナー肉芽腫症 | 2人 | ・リンパ脈管筋腫症(LAM) | 0人 |
| ・特発性拡張型(うっ血型)心筋症 | 48人 | ・重症多形滲出性紅斑(急性期) | 0人 |
| ・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群) | 23人 | ・黄色靭帯骨化症 | 1人 |
| ・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型) | 0人 | ・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症) | 27人 |

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|---|----------|
| ・膀胱水圧拡張術 | ・ |
| ・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る) | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

| | |
|-------------------------------------|---|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況 | 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | <p>病理診断部門との開催状況</p> <p>* 毎週開催 乳腺・甲状腺症例検討会 婦人科症例検討会 腎生検症例検討会(年2回) 皮膚科症例検討会(不定期) 泌尿器科症例検討会(不定期)</p> <p>* 毎月開催 第一外科症例検討会 呼吸器症例検討会 下部消化管症例検討会 上部消化管症例検討会</p> |
| 部 検 の 状 況 | 部検症例数 28例 / 部検率 11.02% |

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 千円 | 補助元又は委託元 |
|--|--------|---------|----------|------------|
| 次世代大規模シーケンシング技術による慢性ウイルス性肝疾患の病態解明 | 榎本 信幸 | 内科学1 | 1,300 | 補委 日本学術振興会 |
| 次世代シーケンサーを用いた統合的遺伝子解析による慢性C型肝炎の病態解明 | 榎本 信幸 | 内科学1 | 7,150 | 補委 日本学術振興会 |
| HCVゲノム解析による治療効果予測マーカーの開発 | 坂本 稔 | 内科学1 | 1,430 | 補委 日本学術振興会 |
| 抗ウイルス効果を規定するC型肝炎ウイルスゲノム領域の機能解明 | 前川 伸哉 | 内科学1 | 1,430 | 補委 日本学術振興会 |
| 細胞内脂質代謝抑制によるC型肝炎ウイルス治療戦略の開発 | 雨宮 史武 | 内科学1 | 2,210 | 補委 日本学術振興会 |
| 大腸癌患者の血清DKK4測定によるWntシグナル亢進の評価とその意義 | 山口 達也 | 内科学1 | 2,210 | 補委 日本学術振興会 |
| ホスホリパーゼA2受容体の解析による心血管病の成因解明と新規治療薬の開発 | 久木山 清貴 | 内科学2 | 6,240 | 補委 日本学術振興会 |
| 薬剤溶出性ステント留置後の冠動脈内皮障害へのリモートコンディショニング効果の検討 | 中村 貴光 | 内科学2 | 2,600 | 補委 日本学術振興会 |
| 薬剤溶出性ステントによる気絶または冬眠心筋の機能回復に対する阻害作用に関する研究 | 尾畑 純栄 | 内科学2 | 2,080 | 補委 日本学術振興会 |
| 劇症1型糖尿病と自己免疫性膵炎に認められる特異的自己抗体の意義と臨床応用 | 遠藤 登代志 | 内科学3 | 910 | 補委 日本学術振興会 |
| 自己免疫性膵炎と劇症1型糖尿病の新規自己抗体の発見と測定系の確立 | 滝澤 壮一 | 内科学3 | 2,340 | 補委 日本学術振興会 |
| 甲状腺ホルモン受容体による糖尿病マウス遺伝子治療の試み | 古屋 文彦 | 内科学3 | 1,430 | 補委 日本学術振興会 |
| 骨髄増殖性疾患における骨髄内低酸素環境破壊と正常造血抑制機構の解明 | 桐戸 敬太 | 血液・腫瘍内科 | 910 | 補委 日本学術振興会 |
| 小児難治性固形腫瘍に対する同種ナチュラルキラー細胞による抗腫瘍効果 | 合併 久美子 | 小児科 | 2,250 | 補委 日本学術振興会 |
| 難治性小児白血病に対する移植片対白血病効果における細胞傷害因子の臨床的意義の解明 | 犬飼 岳史 | 小児科 | 650 | 補委 日本学術振興会 |
| 急性骨髄性白血病におけるNotch1シグナルの検討:新たな分化誘導療法をめざして | 中村 誠 | 小児科 | 1,170 | 補委 日本学術振興会 |
| 11q23転座型ALLと、それを維持する骨髄微小環境の生物学的特性と機構の解明 | 古市 嘉行 | 小児科 | 650 | 補委 日本学術振興会 |
| てんかん児の前頭葉機能障害に関する神経機能解剖学的研究 | 金村 英秋 | 小児科 | 780 | 補委 日本学術振興会 |
| 急性リンパ性白血病に発現されるCD33抗原の解析 | 赤羽 弘資 | 小児科 | 2,730 | 補委 日本学術振興会 |
| 乳幼児閉塞型睡眠時無呼吸症候群の診断基準の確立と病態解明、治療効果の検討 | 杉山 剛 | 小児科 | 1,170 | 補委 日本学術振興会 |
| B前駆細胞性白血病におけるLMO2過剰発現の機序と意義に対する検討 | 廣瀬 衣子 | 小児科 | 2,600 | 補委 日本学術振興会 |
| 小児難治性白血病に対する臍帯血ナチュラルキラー細胞による抗白血病効果 | 大城 浩子 | 小児科 | 1,430 | 補委 日本学術振興会 |
| 経頭蓋直流刺激のうつ病治療の可能性についての研究 | 本橋 伸高 | 精神科 | 1,170 | 補委 日本学術振興会 |
| アルツハイマー病脳におけるマイクロRNA発現の異常と酸化ストレスの関連性 | 布村 明彦 | 精神科 | 2,470 | 補委 日本学術振興会 |
| 神経接着因子関連の脳神経ネットワークから依存を解明する | 石黒 浩毅 | 精神科 | 2,730 | 補委 日本学術振興会 |
| 電気けいれん療法における発作後せん妄状態の脳波・局所脳血流解析 | 安田 和幸 | 精神科 | 1,560 | 補委 日本学術振興会 |
| 抗うつ療法が酸化ストレスマーカーおよび脳由来神経栄養因子に及ぼす効果 | 玉置 寿男 | 精神科 | 650 | 補委 日本学術振興会 |

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 千円 | 補助元又は委託元 | |
|---|-------|------------|----------|----------|---------|
| ヒト化マウスを用いたVitaminD3、HSV-2のHIV感染への関与の検討 | 島田 眞路 | 皮膚科 | 3,120 | 補委 | 日本学術振興会 |
| HSV/HIV 経皮感染初期の免疫機構の解明と侵入阻害法の開発 | 島田 眞路 | 皮膚科 | 9,490 | 補委 | 日本学術振興会 |
| メラノーマ担癌宿主に対する有効な免疫治療法を確立するための基礎研究 | 柴垣 直孝 | 皮膚科 | 3,380 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 蛍光HIVの表皮侵入機構の可視化と新規HIV侵入阻害薬の開発 | 川村 龍吉 | 皮膚科 | 3,640 | 補委 | 日本学術振興会 |
| キナーゼ阻害薬の悪性黒色腫増殖抑制に対するメカニズムの解明 | 原田 和俊 | 皮膚科 | 2,080 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 腫瘍微小環境でメラノーマに誘導される新規免疫抑制分子の同定 | 猪爪 隆史 | 皮膚科 | 2,210 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 慢性日本住血吸虫症の肝細胞癌切除後の再発・予後に与える影響とそのメカニズムの解明 | 松田 政徳 | 外科学1 | 2,080 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 肝類洞機能を重視した新しい視点に基づく人工肝臓補助システムの開発 | 藤井 秀樹 | 外科学1 | 2,470 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 消化器癌微小環境における酸化ストレスが誘導する免疫細胞機能不全の解明 | 三村 耕作 | 外科学1 | 2,470 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 炎症防御における自然免疫系を介した臓器相互関連の解析と、その臨床応用に関する研究 | 河野 寛 | 外科学1 | 910 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 担癌状態における免疫制御機序、特にTh17細胞の分布と誘導機序の解明 | 水上 佳樹 | 外科学1 | 1,690 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 非癌部遺伝子プロファイルによるヒト肝細胞癌のサブクラス分類の検討 | 土屋 雅人 | 外科学1 | 2,210 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 食道癌に対するHerceptin抗体療法とperforin耐性の関与 | 河口 賀彦 | 外科学1 | 1,820 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 本邦における小児褥瘡の発症現況と病態の解明、および褥瘡予防寝具の開発 | 高野 邦夫 | 外科学2 | 4,420 | 補委 | 日本学術振興会 |
| レーザー加工による極細繊維とメビオールジェルを用いた人工的生体血管の作成 | 進藤 俊哉 | 外科学2 | 1,300 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 小胞体ストレスと破骨細胞 | 小山 賢介 | 整形外科 | 1,560 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 関節リウマチの滑膜増殖におけるHER2の役割と抗HER2抗体による治療の可能性 | 安藤 隆 | 整形外科 | 1,469 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 退行性椎間板疾患における炎症性サイトカインTSLPの役割の解明 | 大場 哲郎 | リハビリテーション部 | 910 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 脳虚血耐性現象におけるエピジェネティクスを介した神経保護機序の解明 | 吉岡 秀幸 | 脳神経外科 | 1,950 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 核内転写因子PPAR γ の虚血性神経細胞障害保護機構の解明 | 木内 博之 | 脳神経外科 | 1,040 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 脳虚血後神経新生におけるFABPと制御因子の解析 | 杉田 正夫 | 脳神経外科 | 1,040 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 脊髄損傷後神経再生におけるFABPと制御因子の解明 | 内田 幹人 | 脳神経外科 | 1,170 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 前投薬、加齢が麻酔前加温と術中体温(中枢温、末梢温)に及ぼす影響に関する研究 | 松川 隆 | 麻酔科 | 1,170 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 心筋虚血再灌流障害に対して高用量インスリン投与は有効か | 佐藤 宏明 | 麻酔科 | 1,950 | 補委 | 日本学術振興会 |
| TNF- α とスーパーオキシドからみた、ウリナスタチンによる心筋保護効果の解明 | 小口 健史 | 麻酔科 | 1,040 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 日本におけるモニタード・アネスセジア・ケアの安全性と有効性の検討 | 飯嶋 哲也 | 麻酔科 | 1,040 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 体細胞核移植技術の臨床応用の実現へ向けた系統的・基礎的研究 | 平田 修司 | 産婦人科 | 1,950 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 子宮頸部胃型腺系病変の生物学的解析 | 端 晶彦 | 医療福祉支援センター | 2,340 | 補委 | 日本学術振興会 |
| マウス対外成熟卵を使用した体細胞クローン胚由来ES細胞の樹立 | 下地 彩乃 | 産婦人科 | 780 | 補委 | 日本学術振興会 |

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 千円 | 補助元又は委託元 |
|---|--------|-------------|----------|-------------|
| 生体リズム異常に伴う夜間頻尿発症メカニズムと新規治療法-足浴の効果とその機序- | 武田 正之 | 泌尿器科 | 2,600 | ①補委 日本学術振興会 |
| 下部尿路機能障害における求心性伝達機構と新たな治療法の開発に関する研究 | 武田 正之 | 泌尿器科 | 10,270 | ①補委 日本学術振興会 |
| 間質性膀胱炎の疼痛に対するボツリヌス毒素、トリカブト毒の作用機序 | 土田 孝之 | 泌尿器科 | 2,210 | ①補委 日本学術振興会 |
| 下部尿路におけるTRPV4を介した伸展刺激による尿意のメカニズムの解明 | 望月 勉 | 泌尿器科 | 2,340 | ①補委 日本学術振興会 |
| 低活動膀胱に対する中枢性及び末梢性神経ペプチド受容体を標的とした治療戦略 | 芳山 充晴 | 泌尿器科 | 1,040 | ①補委 日本学術振興会 |
| 伸展刺激に対する膀胱上皮細胞におけるATP放出メカニズムの解明 | 中込 宙史 | 泌尿器科 | 2,860 | ①補委 日本学術振興会 |
| 網膜疾患診療経過の客観的評価システム開発 | 飯島 裕幸 | 眼科 | 1,040 | ①補委 日本学術振興会 |
| 原発開放隅角緑内障感受性遺伝子の検索—ESR2遺伝子多型解析— | 間瀬 文彦 | 眼科 | 1,170 | ①補委 日本学術振興会 |
| 加齢黄斑変性症患者における感受性遺伝子とサイトカインの関連性 | 櫻田 庸一 | 眼科 | 2,470 | ①補委 日本学術振興会 |
| エピジェネティクスを標的とした癌幹細胞への新しい治療戦略の開発 | 近松 一朗 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 2,470 | ①補委 日本学術振興会 |
| アレルギー性鼻炎治療の新しい標的の可能性のあるTSLPについての検討 | 宮田 政則 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 1,560 | ①補委 日本学術振興会 |
| 頭頸部癌におけるB7—H3分子発現の免疫学的意義と臨床応用に関する研究 | 森山 元大 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 780 | ①補委 日本学術振興会 |
| 頭頸部癌微小環境におけるMDSCの分化・成熟と免疫抑制機構の解明 | 山本 卓典 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 910 | ①補委 日本学術振興会 |
| 拡散強調画像の新たな展開; 灌流の定量 | 本杉 宇太郎 | 放射線科 | 2,860 | ①補委 日本学術振興会 |
| ピロリ菌惹起ITPにおける外毒素VacAと血小板マルチメリンの役割 | 尾崎 由基男 | 臨床検査医学 | 3,120 | ①補委 日本学術振興会 |
| 肺上皮細胞の発生、分化における血小板受容体CLEC-2の役割の解明 | 井上 修 | 臨床検査医学 | 2,860 | ①補委 日本学術振興会 |
| 新しい測定原理に基づく血小板凝集能検査の自動化ならびに全血法の開発 | 佐藤 金夫 | 臨床検査医学 | 780 | ①補委 日本学術振興会 |
| 甲状腺高悪性度腫瘍(低分化癌・未分化癌)の遺伝子異常プロファイルの多角的解析研究 | 加藤 良平 | 人体病理学 | 650 | ①補委 日本学術振興会 |
| 乳腺神経内分泌腫瘍(B-NETs)の発生機構の病理学的解析および新分類の提唱 | 川崎 朋範 | 人体病理学 | 2,990 | ①補委 日本学術振興会 |
| エピジェネティクス制御による甲状腺癌の分化誘導と上皮間葉転換抑制に関する研究 | 近藤 哲夫 | 人体病理学 | 910 | ①補委 日本学術振興会 |
| グリア病としての緑内障性視神経障害の発症解明と治療法探索 | 柏木 賢治 | 地域医療学 | 1,430 | ①補委 日本学術振興会 |
| 重症患者に対する連続腸音解析による腸蠕動運動モニタリング法の開発とシステムの構築 | 松田 兼一 | 救急集中治療学 | 1,300 | ①補委 日本学術振興会 |
| mTORを分子標的としたバイパス開存率向上の研究 | 榊原 賢士 | 救急部 | 1,950 | ①補委 日本学術振興会 |
| C型肝炎患者肝細胞癌の転移機構解明を目的としたMTA-1発現に関する研究 | 浅川 真巳 | 集中治療部 | 780 | ①補委 日本学術振興会 |
| 血中sCLEC-2測定法の確立と臨床応用に向けた検討: 動脈血栓症の予防を目指して | 長田 誠 | 検査部 | 780 | ①補委 日本学術振興会 |
| 敗血症患者におけるIL-6, CRP, PCTの病態解析の臨床応用 | 遠藤 真澄 | 検査部 | 780 | ①補委 日本学術振興会 |
| 国際臨床化学連合から勧告された血清アルカリ性ホスファターゼ測定法の臨床的評価 | 山崎 浩和 | 検査部 | 390 | ①補委 日本学術振興会 |
| セボフルラン、プロポフォール麻酔時のエストロゲン、プロゲステロンの脳保護効果 | 石山 忠彦 | 手術部 | 3,250 | ①補委 日本学術振興会 |
| 血糖値が体温調節性シナリングに与える影響についての研究 | 正宗 大士 | 手術部 | 2,990 | ①補委 日本学術振興会 |

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 千円 | 補助元又は委託元 |
|---|--------|-------------|----------|-------------------------|
| 甲状腺癌とくに未分化癌におけるアデノシンレセプターの分子病理学的解析 | 中澤 匡男 | 病理部 | 390 | ⑤補委 日本学術振興会 |
| 抗がん剤投与による末梢神経障害の緩和を目的とした皮膚貼付型ハイドロゲルの開発 | 花輪 剛久 | 薬剤部 | 910 | ⑤補委 日本学術振興会 |
| ウイルス性肝炎の病態に応じたウイルス側因子の解明と治療応用 | 榎本 信幸 | 内科学1 | 44,376 | ⑤補委 厚生労働省 |
| 肝炎に関する全国規模のデータベース構築に関する研究 | 井上 泰輔 | 内科学1 | 1,500 | ⑤補委 厚生労働省 |
| C型肝炎における新規治療法に関する研究 | 坂本 稔 | 内科学1 | 1,500 | ⑤補委 厚生労働省 |
| 遠隔医療技術活用に関する諸外国と我が国の実態の比較調査研究 | 柏木 賢治 | 内科学1 | 300 | ⑤補委 厚生労働省 |
| 創薬と新規治療法開発に資するヒト肝細胞キメラマウスを用いた肝炎ウイルス制御に関する研究 | 前川 伸哉 | 内科学1 | 2,500 | ⑤補委 厚生労働省 |
| ウイルス性肝疾患に対する分子標的治療創薬に関する研究 | 前川 伸哉 | 内科学1 | 2,000 | ⑤補委 厚生労働省 |
| 慢性ウイルス性肝疾患患者の情報収集の在り方等に関する研究 | 坂本 稔 | 内科学1 | 1,500 | ⑤補委 厚生労働省 |
| 運動失調症の病態解明と治療法開発に関する研究 | 滝山 嘉久 | 神経内科 | 1,600 | ⑤補委 厚生労働省 |
| スモンに関する調査研究(山梨県におけるスモン患者の病態) | 滝山 嘉久 | 神経内科 | 700 | ⑤補委 厚生労働省 |
| 性分泌疾患における診療法の確立と治療指針の作成 | 大山 達司 | 小児科 | 1,000 | ⑤補委 厚生労働省 |
| 漢方方剤「抑肝散」によるアルツハイマー病BPSD軽減効果の検証-プラセボ対照無作為化臨床第2相比較試験- | 布村 明彦 | 精神科 | 600 | ⑤補委 厚生労働省 |
| 安全かつ効果的な抗HIV療法開発のための研究 | 川村 龍吉 | 皮膚科 | 4,000 | ⑤補委 厚生労働省 |
| 高悪性度筋層非浸潤癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除後の治療方針の確立に関する研究 | 武田 正之 | 泌尿器科 | 150 | ⑤補委 厚生労働省 |
| がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用 | 大西 洋 | 放射線医学 | 300 | ⑤補委 厚生労働省 |
| 高精度放射線治療システムの実態調査と臨床評価に関する研究 | 大西 洋 | 放射線医学 | 600 | ⑤補委 厚生労働省 |
| ヘパリン起因性血小板減少症の診断基準確立のための研究 | 尾崎 由基男 | 臨床検査医学 | 400 | ⑤補委 厚生労働省 |
| 褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究 | 加藤 良平 | 人体病理学 | 500 | ⑤補委 厚生労働省 |
| 新規血小板上受容体CLEC-2を標的とした抗血小板薬、抗転移・腫瘍薬、検査の開発 | 井上 克枝 | 臨床検査医学 | 64,645 | ⑤補委 内閣府 |
| 頭頸部扁平上皮癌根治治療後のTS-1補助化学療法の検討-多施設無作為化比較試験- | 増山敬祐 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 105 | ⑤補委 (財)先端医療振興財団 |
| 術後補助化学療法におけるフツ化ピリミジン系薬剤の有用性に関する比較臨床試験(治療切除直腸癌に対するUFT療法とTS-1療法との比較検討) | 藤井秀樹 | 外科学1 | 178 | ⑤補委 (財)循環器病研究振興財団 |
| 「StageII大腸癌に対する術後補助化学療法に関する研究」第III相臨床試験 | 飯野 弥 | 外科学1 | 210 | ⑤補委 (株)バイオメディスインターナショナル |
| 「StageII大腸癌における分子生物・病理学的マーカーによる再発high-risk群とフツ化ピリミジン感受性群の選択に関する研究」 | 飯野 弥 | 外科学1 | 105 | ⑤補委 (財)がん集学的治療研究財団 |
| Bard Dynaflo e-PTFEグラフトを用いた大腿-膝上部膝窩動脈バイパス術における治療成績と医療経済性の評価 | 榊原賢士 | 救急部 | 55 | ⑤補委 (財)先端医療振興財団 |
| 「StageIII結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのUFT/Leucovorin療法とTS-1療法の第III相比較臨床試験および遺伝子発現に基づく効果予測因子の探索的研究」 | 飯野 弥 | 外科学1 | 578 | ⑤補委 (株)メディコン |
| キャピオックスFXシリーズにおける低ヘマトクリットに対する標準回路(プレコネクト回路含)仕様の有用性に関する臨床評価 | 鈴木章司 | 外科学2 | 750 | ⑤補委 センチュリーメディカル(株) |

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 千円 | 補助元又は委託元 |
|--|-------|-------------|----------|--------------------------------|
| 治癒切除結腸癌(StageIII)を対象としたフッ化ピリミジン系薬剤を用いた術後補助化学療法の個別化治療に関するコホート研究 | 飯野弥 | 外科学1 | 74 | 補委 オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス(株) |
| アルカリ性ホスファターゼ測定試薬の評価 | 尾崎由基男 | 検査部 | 273 | 補委 和光純薬工業(株) |
| アレルギーコンポーネント(アレルギー性鼻炎)臨床性能試験 | 増山敬祐 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 9 | 補委 (財)先端医療振興財団 |
| 切除不能肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法(TACE)とソラフェニブの併用療法第II相臨床試験(Phase II study:Transcatheter Arterial Chemoembolization Therapy In Combination with Sorafenib (TACTICS Study)) | 榎本信幸 | 内科学1 | 75 | 補委 テルモ(株)心臓血管カンパニーCVグループ |
| | | | | 計116件 |

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

| No | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|----|---|---|--|------|
| 1 | Hepatol Int. 2011 August 17. | Analysis of viral amino acids sequences and the IL28B SNP influencing the development of hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis. | Miura M, Maekawa S, Kadokura M, Sueki R, Komase K, Shindo H, Ohmori T, Kanayama A, Shindo K, Amemiya F, Nakayama Y, Kitamura T, Uetake T, Inoue T, Sakamoto | 第一内科 |
| 2 | Hepatol Int. 2011 August 17 | Characterization of naturally occurring protease inhibitor-resistance mutations in genotype 1b hepatitis C virus patients. | Shindo H, Maekawa S, Komase K, Kadokura M, Sueki R, Miura M, Shindo K, Amemiya F, Kitamura T, Nakayama Y, Uetake T, Inoue T, Sakamoto M, Okada S, Asahina Y, Izumi N, Honda M, Kaneko S, | 第一内科 |
| 3 | PLoS One. 2011;6(9):e24514. Epub 2011 Sep 15. | Analysis of the complete open reading frame of genotype 2b hepatitis C virus in association with the response to peginterferon and ribavirin therapy | Kadokura M, Maekawa S, Sueki R, Miura M, Komase K, Shindo H, Amemiya F, Uetake T, Inoue T, Sakamoto M, Nakagawa M, Sakamoto N, Watanabe M, Enomoto N. | 第一内科 |
| 4 | Hepatol Int. 2011 Mar 20. | Analysis of the complete open reading frame of hepatitis C virus in genotype 2a infection reveals critical sites influencing the response to peginterferon and ribavirin therapy. | Kadokura M, Maekawa S, Sueki R, Miura M, Komase K, Shindo H, Amemiya F, Uetake T, Inoue T, Sakamoto M, Nakagawa M, Sakamoto N, Watanabe M, Enomoto N. | 第一内科 |
| 5 | Bioorg Med Chem. 12 September 2011 | A new method for induced fit docking (GENIUS) and its application to virtual screening of novel HCV NS3-4A protease inhibitors | Takaya D, Yamashita A, Kamijo K, Gomi J, Ito M, Maekawa S, Enomoto N, Sakamoto N, Watanabe Y, Arai R, Umeyama H, Honma T, Matsumoto T, Yokoyama S | 第一内科 |
| 6 | Hepatol Res. 2011 Oct;41(10):955-964. | Cancer preventive effect of pegylated interferon α -2b plus ribavirin in a real-life clinical setting in Japan: PERFECT interim analysis. | Watanabe S, Enomoto N, Koike K, Izumi N, Takikawa H, Hashimoto E, Moriyasu F, Kumada H, Imawari M; | 第一内科 |
| 7 | J Hepatol. 2011 Mar;54(3):439-48. | Pre-treatment prediction of response to pegylated-interferon plus ribavirin for chronic hepatitis C using genetic polymorphism in IL28B and viral factors. | Kurosaki M, Tanaka Y, Nishida N, Sakamoto N, Enomoto N, Honda M, Sugiyama M, Matsuura K, Sugauchi F, Asahina Y, Nakagawa M, Watanabe M, Sakamoto M, Maekawa S, Sakai A, Kaneko S, Ito K, Masaki N, Tokunaga K, | 第一内科 |
| 8 | Hepatology. 2011 Aug 24. | Association of gene expression involving innate immunity and genetic variation in IL28B with antiviral response | Asahina Y, Tsuchiya K, Muraoka M, Tanaka S, Suzuki Y, Tamaki N, Hoshioka Y, Yasui Y, Katoh T, Hosokawa T, Ueda K, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Kurosaki M, Enomoto N, Nitta S, Sakamoto | 第一内科 |
| 9 | Antivir Ther. 2011;16(5):685-94. | Relationship between polymorphisms of the inosine triphosphatase gene and anaemia or outcome after treatment with pegylated interferon and ribavirin. | Kurosaki M, Tanaka Y, Tanaka K, Suzuki Y, Hoshioka Y, Tamaki N, Kato T, Yasui Y, Hosokawa T, Ueda K, Tsuchiya K, Kuzuya T, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Asahina Y, Matsuura K, Sugauchi F, Enomoto N, Nishida N, Tokunaga K, Mizokami M, | 第一内科 |
| 10 | Magn Reson Imaging. 2011 Oct;29(8):1047-52. Epub 2011 Jul 19. | Staging liver fibrosis by using liver-enhancement ratio of gadoxetic acid-enhanced MR imaging: comparison with aspartate aminotransferase-to-platelet ratio index. | Motosugi U, Ichikawa T, Oguri M, Sano K, Sou H, Muhi A, Matsuda M, Fujii H, Enomoto | 第一内科 |
| 11 | Oncology. 2011;80(3-4):278-88. Epub 2011 Jul 7 | Expression of keratin 19 is related to high recurrence of hepatocellular carcinoma after radiofrequency ablation. | Tsuchiya K, Komuta M, Yasui Y, Tamaki N, Hosokawa T, Ueda K, Kuzuya T, Itakura J, Nakanishi H, Takahashi Y, Kurosaki M, Asahina Y, Enomoto N, Sakamoto M, Izumi | 第一内科 |
| 12 | Hum Mol Genet. 2011 Sep 1;20(17):3507-16. Epub 2011 Jun 9. | Genome-wide association study identified ITPA/DDRGK1 variants reflecting thrombocytopenia in pegylated interferon and ribavirin therapy for chronic hepatitis C. | Tanaka Y, Kurosaki M, Nishida N, Sugiyama M, Matsuura K, Sakamoto N, Enomoto N, Yatsushashi H, Nishiguchi S, Hino K, Hige S, Itoh Y, Tanaka E, Mochida S, Honda M, Hiasa Y, Koike A, Sugauchi F, Kaneko S, Izumi N, Tokunaga | 第一内科 |
| 13 | Gastroenterology. 2011 Jul;141(1):e1-5. Epub 2011 May | Will there be an HCV meeting in 2020? Summary of the 17th international meeting on hepatitis C virus and related viruses. | Wakita T, Suzuki T, Evans MJ, Shimotohno K, Chayama K, Matsuura Y, Hijikata M, Moriishi K, Seya T, Enomoto N, Koike K, Kato N, Kanto T, | 第一内科 |

| No. | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----|--|---|---|------|
| 14 | J Magn Reson Imaging. 2011 Jul;34(1):88-94. doi: 10.1002/jmri.22630.Epub 2011 May 23. | Outcome of hypovascular hepatic nodules revealing no gadoteric acid uptake in patients with chronic liver disease. | Motosugi U, Ichikawa T, Sano K, Sou H, Onohara K, Muhi A, Amemiya F, Enomoto N, Matsuda M, Fujii H, Araki T. | 第一内科 |
| 15 | JACC Cardiovasc Interv. 2011;4:247-55 | Vasomotor Function Following Paclitaxel-coated Balloon Post-dilatation in Porcine Coronary Stent Model. | Nakamura T, Brigitta BC, Brants I, Panchal D, Li J, Chen JP, King SB 3rd, Chronos N, Hon D. | 第二内科 |
| 16 | Atherosclerosis. 2011 May 6 | Predictive value of remnant lipoprotein for cardiovascular events in patients with coronary artery disease after achievement of LDL-cholesterol goals | Nakamura T, Obata JE, Hirano M, Kitta Y, Fujioka D, Saito Y, Kawabata KI, Watanabe K, Watanabe Y, Mishina H, Kugiyama K | 第二内科 |
| 17 | Atherosclerosis. 2011 Sep;218(1):163-7 | Predictive value of remnant lipoprotein for cardiovascular events in patients with coronary artery disease after achievement of LDL-cholesterol goals | Nakamura T, Obata JE, Hirano M, Kitta Y, Fujioka D, Saito Y, Kawabata K, Watanabe K, Watanabe Y, Mishina H, Kugiyama K | 第二内科 |
| 18 | Am J Physiol Heart Circ Physiol. 2012 Jan;302(1):H95-104 | Group X secretory PLA2 in neutrophils plays a pathogenic role in abdominal aortic aneurysms in mice | Watanabe K, Fujioka D, Saito Y, Nakamura T, Obata JE, Kawabata K, Watanabe Y, Mishina H, Tamaru S, Hanasaki K, Kugiyama K | 第二内科 |
| 19 | Am J Physiol Heart Circ Physiol. 2012 Mar 16 | Disruption of group IVA cytosolic phospholipase A2 attenuates myocardial ischemia-reperfusion injury partly through inhibition of TNF α -mediated pathway | Saito Y, Watanabe K, Fujioka D, Nakamura T, Obata JE, Kawabata K, Watanabe Y, Mishina H, Tamaru S, Kita Y, Shimizu T, Kugiyama K | 第二内科 |
| 20 | Circ J. 2012 Mar 27 | Early Improvement in Carotid Plaque Echogenicity by Acarbose in Patients With Acute Coronary Syndromes | Hirano M, Nakamura T, Obata JE, Fujioka D, Saito Y, Kawabata KI, Watanabe K, Watanabe Y, Kugiyama K | 第二内科 |
| 21 | Int J Cardiol. 2012 Feb 10 | Ultrasound assessment of brachial endothelial vasomotor function in addition to carotid plaque echolucency for predicting cardiovascular events in patients with coronary artery disease. | Nakamura T, Kitta Y, Uematsu M, Sugamata W, Hirano M, Fujioka D, Sano K, Saito Y, Kawabata KI, Obata JE, | 第二内科 |
| 22 | J Cardiol. 2012 Mar 2 | A comparison of the efficacy of combined ezetimibe and statin therapy with doubling of statin dose in patients with remnant lipoproteinemia on previous statin therapy. 2 | Nakamura T, Hirano M, Kitta Y, Fujioka D, Saito Y, Kawabata KI, Obata JE, Watanabe Y, Watanabe K, | 第二内科 |
| 23 | Diabetes 60: 884-889, 2011. | RIG-I- and MDA5-Initiated Innate Immunity Linked With Adaptive Immunity Accelerates β -Cell Death in Fulminant Type 1 Diabetes. | Kaoru Aida, Yoriko Nishida, Shoichiro Tanaka, Hiroki Shimura, Soichi Takizawa, Masashi Ichijo, Daichiro Akiyama, Fumihiko Furuya, Akio Kawaguchi, Masahiro Kaneshige, Toyoshi Endo, and | 第三内科 |
| 24 | Hepatology Research 41:524-529, 2011. | Efficacy and safety in sitagliptin therapy for diabetes complicated by chronic liver disease caused by hepatitis C virus. | asuji Arase, Shium Dong Hsieh, and Tetsuro Kobayashi. | 第三内科 |
| 25 | Internal Medicine Vol 50, 10,1081-1087,2011. | The Development of Chronic Kidney Disease in Japanese Patients with Non-alcoholic Fatty Liver Disease. | Yasuji Arase, Shigeko Hara and Tetsuro Kobayashi. | 第三内科 |
| 26 | the Research Committee on Type 1 Diabetes of the Japan Diabetes Society. Diabetes Care 34:2084-2089, 2011. | Type 1 Diabetes and Interferon Therapy: A nationwide survey in Japan. | Nakamura K, Kawasaki E, Imagawa A, Awata T, Ikegami H, Uchigata Y, Kobayashi T, Shimada A, Nakanishi K, Makino H, Maruyama T, | 第三内科 |
| 27 | 人間ドック 25(5):789-797, 2011. | 人間ドック全受診者に対する甲状腺超音波健診の結果と、結節性病変の経年的変化. | 宮崎朝子, 志村浩己, 堀内里枝子, 岩村洋子, 志村浩美, 小林哲郎, 若林哲也, 田草川正弘 | 第三内科 |
| 28 | Biochemical and Biophysical Research Communications 416: | Thyroid-specific gene expression in chondrocytes. | Toyoshi Endo, Tetsuro Kobayashi. | 第三内科 |
| 29 | Internal Medicine;50(10):1081-1087. Epub 2011 May 1. | The development of chronic kidney disease in Japanese patients with non-alcoholic fatty liver disease. | Arase Y, Suzuki F, Hara S, Kobayashi T. | 第三内科 |
| 30 | Hepatology Research: 10. 2011 Dec 19. | Difference in malignancies of chronic liver disease due to non-alcoholic fatty liver disease or hepatitis C in Japanese elderly patients. | Arase Y, Kobayashi M, Suzuki F, Kobayashi T. | 第三内科 |
| 31 | Rinsho Shinkeigaku 51(11):1125-8 | Hereditary spastic paraplegia in Japan | Takiyama Y | 神経内科 |
| 32 | J Neuroimaging doi: 10.1111/j.1552-6569.2011.00647.x. | Middle Cerebellar Peduncles and Pontine T2 Hypointensities in ARSACS. | Shimazaki H, Takiyama Y, Honda J, Sakoe K, Namekawa M, Tsugawa J, Tsuboi Y, Suzuki C, Baba M, Nakano I. | 神経内科 |
| 33 | Neurology. 27;77(13):1287-94 | GFAP mutations, age at onset, and clinical subtypes in Alexander disease. | Prust M, Wang J, Morizono H, Messing A, Brenner M, Gordon E, Hartka T, Sokohl A, Schifmann R, Gordish-Dressman H, Albin R, Amartino H, Brockman K, Dinopoulos A, Dotti MT, Fain D, Fernandez R, Ferreira J, Fleming J, Gill D, Griebel M, Heilstedt H, Kaplan P, Lewis D, Nakagawa M, Pedersen R, Reddy A, Sawaishi Y, Schneider M, Sherr E, Takiyama Y, Wakabayashi K, | 神経内科 |
| 34 | Neurol Res Int.2012:197438. | MRI findings in neuroferritinopathy. | Ohta E, Takiyama Y. | 神経内科 |

| No. | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----|---|--|---|---------|
| 35 | Clin Nucl Med. 36(8):725-7. | Cerebral hypermetabolism demonstrated by FDG PET in familial Creutzfeldt-Jakob disease. | Nagasaka T, Nagasaka K, Ohta E, Shindo K, Takiyama Y, Shiozawa Z, Miyazawa N, Yamasaki N, Mori N, Onda H, | 神経内科 |
| 36 | Amyotroph Lateral Scler. 12(1):39-44. Epub | Sympathetic sudomotor neural function in amyotrophic lateral sclerosis. | Shindo K, Watanabe H, Ohta E, Nagasaka T, Shiozawa Z, Takiyama Y. | 神経内科 |
| 37 | Int J Hematol. 2011 Jul;94(1):71-80. | Romiplostim for the treatment of chronic immune thrombocytopenia in adult Japanese patients: a double-blind, randomized Phase III clinical trial. | Shirasugi Y, Ando K, Miyazaki K, Tomiyama Y, Okamoto S, Kurokawa M, Kirito K, Yonemura Y, Mori S, Usuki K, Iwato K, Hashino S, Wei H, | 血液・腫瘍内科 |
| 38 | Leuk Res. 2011;35:1632-1636. | Alternately binding probe competitive PCR as a simple, cost-effective, and accurate quantification method for JAK2V617F allele burden in myeloproliferative neoplasms. | Morishita S, Komatsu N, Kirito K, Koda AH, Sekiguchi Y, Tsuneda S, Noda N. | 血液・腫瘍内科 |
| 39 | 臨床血液 52(6):368-375 | 赤血球造血におけるシグナルと転写制御 転写因子HIFによる赤血球造 | 桐戸敬太 | 血液・腫瘍内科 |
| 40 | 臨床血液 52(7):460-468 | 新規キナーゼ阻害剤の白血病およびPh陰性骨髄増殖性腫瘍治療への応 | 桐戸敬太 | 血液・腫瘍内科 |
| 41 | 臨床血液 52(10):1575-1584 | MPNの分類と病態 | 桐戸敬太 | 血液・腫瘍内科 |
| 42 | 日本小児呼吸器疾患学会雑誌, 22(1)1-5 | Aerodynamic Particle Sizer R Spectrometerを用いて測定した、ネブライザーによりエアロゾル化された Budesonide 粒子における空気動力学的特 | 杉山 剛, 藤野 聡, 笛木 正人, 杉田 完爾 | 小児科 |
| 43 | Brain Dev ; 34: 175-180 | Repeated seizures induce prefrontal growth disturbance in frontal lobe epilepsy. | Kanemura H, Sano F, Tando T, Sugita K, Aihara M. | 小児科 |
| 44 | J Pediatr Neuroradiol 2012; 1: 59-63 | Pseudonormalization on diffusion-weighted MR imaging is ominous sign in Leigh syndrome. | Kanemura H, Nakamura K, Sugita K, Aihara M. | 小児科 |
| 45 | Neuropediatrics; 42: 200-203 | Ictal SPECT of thalamocortical coupling in a patient with frontal absence. | Kanemura H, Sano F, Sugita K, Aihara M. | 小児科 |
| 46 | Pediatr Therapeut; 1: e102 | How do we manage to treat for benign focal epilepsies? | Kanemura H, Aihara M. | 小児科 |
| 47 | J Child Neurol ; 26: 1283-1288 | Effects of ethyl loflazepate on refractory epilepsy in children. | Kanemura H, Sano F, Sugita K, Aihara M. | 小児科 |
| 48 | Bone Marrow Transplant. ;46(6):835-9. | Successful tandem (autologous-cord blood) SCT in advanced neuroblastomas with highly amplified MYCN. | Goi K, Inukai T, Honna H, Akahane K, Hirose K, Kuroda I, Hasuda N, Koshizuka K, Takano K, Sugita K | 小児科 |
| 49 | 山梨医学;39:129-132 | 山梨大学小児科における造血幹細胞移植:特に急性リンパ性白血病について | 合井久美子, 赤羽弘資, 大城浩子, 大飼岳史, 杉田完爾 | 小児科 |
| 50 | Epilepsy Research 97 (1-2): 225-228, 2011 | Differences in cerebral blood flow between missed and generalized seizures with electroconvulsive therapy: A positron emission tomographic study. | Takano H, Motohashi N, Uema T, Ogawa K, Ohnishi T, Nishikawa M, Matsuda H | 精神科 |
| 51 | Case Reports in Dermatology(3):223-227 | A case of Metastatic Extramammary Paget's Disease Responding to Trastuzumab plus Paclitaxel Combination Therapy | Hanawa F, Inozume T, Harada K, Kawamura T, Shibagaki N, Shimada S | 皮膚科 |
| 52 | J Dermatol :1346-8138 | Drug eruption caused by sitagliptin, a dipeptidyl peptidase-IV inhibitor. | Tanaka K, Ogawa Y, Shimada | 皮膚科 |
| 53 | JOURNAL OF BIOLOGICAL CHEMISTRY 286(48):41552-41562 | Reciprocal regulation between proinflammatory cytokine-induced inducible NO synthase (iNOS) and connexin 43 in bladder smooth muscle cells | Kai L, Yao J, Shi L, Sawada N, Chi Y, Yan Q, Matsue H, Kitamura M, Takeda M | 皮膚科 |
| 54 | J Clin Invest 122(2):722-32 | Severe dermatitis with loss of epidermal Langerhans cells in human and mouse zinc deficiency. | Kawamura T, Ogawa Y, Nakamura Y, Nakamizo S, Ohta Y, Nakano H, Kabashima K, Katayama I, Koizumi S, Kodama T. | 皮膚科 |
| 55 | J. Clin. Invest. 122(2):722-732 | Severe irritant dermatitis with loss of Langerhans cells in a mouse model of acrodermatitis enteropathica. | Kawamura T, Ogawa Y, Nakamura Y, Nakamizo S, Izumi A, Kabashima K, Nakano H, Katayama I, Koizumi S, Kodama T, Nakano A, Shimada | 皮膚科 |
| 56 | 日本皮膚科学会雑誌 121(11):2265-2271 | RI・色素法併用によるセンチネルリンパ節生検を施行した皮膚悪性腫瘍135例の検討 | 川村 龍吉, 小川 陽一, 猪爪 隆史, 岩本 拓, 原田 和俊, 柴垣 直孝, 梅田 貴子, 加藤 良平, 島田 眞路 | 皮膚科 |
| 57 | Skin Cancer 2011 26(3):267-273 | 腫瘍免疫療法の特ピックス-治療効果を向上させるためには- | 柴垣 直孝 | 皮膚科 |
| 58 | 臨床免疫・アレルギー科 2011 55(3):255-261 | Protein-transduction domainを用いた抗原性の増強 | 柴垣 直孝, 島田 眞路 | 皮膚科 |
| 59 | 臨床皮膚科 2011 65(1):83-92 | アトピー性皮膚炎患者における前向きアンケート調査(第2報) | 古江 増隆, 川島 眞, 古川 福実, 伊藤 雅幸, 中川 秀己, 塩原 哲夫, 島田 眞路, 瀧川 雅浩, 竹原 和彦, 宮地 良樹, 片山 一朗, 岩月 啓氏 | 皮膚科 |
| 60 | Gan To Kagaku Ryoho, 38(12), 1918-1920 | The effect of immune-based therapy with cytotoxic T lymphocyte and molecular targeting therapy for HER2 in esophageal squamous cell carcinoma. | Mimura K, Izawa S, Siba S, Maruyama T, Watanabe M, Kawaguchi Y, Fujii H, Kono K | 第一外科 |
| 61 | Int J Cancer, 29(10), 2408-2416 | Lapatinib inhibits receptor phosphorylation and cell growth and enhances antibody-dependent cellular cytotoxicity of EGFR- and HER2-overexpressing esophageal cancer cell lines. | Mimura K, Kono K, Maruyama T, Watanabe M, Izawa S, Shiba S, Mizukami Y, Kawaguchi Y, Inoue M, Kono T, Choudhury A, Kiessling R, Fujii H | 第一外科 |
| 62 | International Journal of Cancer, 128(2), 390-401 | T cell recognition of HLA-A2 restricted tumor antigens is impaired by the oncogene HER2/neu, | Mimura K, Ando T, Isabel Poschke, Dimitrios Mouggiakakos, C. Christian Johansson, Ichikawa J, Okita R, Michael I. Nishimura, Diana Handke, Nancy Krug, Aniruddha Choudhury, Barbara | 第一外科 |

| No. | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----|---|--|---|---------|
| 63 | Dig Dis Sci., 56(4), 1057-1064 | HCV-related proteins activate Kupffer cells isolated from human liver tissues. | Hosomura N, Kono H, Tsuchiya M, Ishii K, Ogiku M, Matsuda M, Fujii H | 第一外科 |
| 64 | Anticancer Res, 31(9), 2999-3005 | Lapatinib enhances herceptin-mediated antibody-dependent cellular cytotoxicity by up-regulation of cell surface HER2 expression. | Maruyama T, Mimura K, Izawa S, Inoue A, Shiba S, Watanabe M, Kawaguchi Y, Inoue M, Nogata H, Inoue S, Fujii | 第一外科 |
| 65 | Nutrition, 27(2), 146-152 | Immunonutritional diet modulates natural killer cell activation and Th17 cell distribution in patients with gastric and esophageal cancer. | Maruyama T, Mimura K, Izawa S, Shiba S, Watanabe M, Kawaguchi Y, Fujii H, Kono K | 第一外科 |
| 66 | Cancer Immunol Immunother, 60(12), 1801-1810 | H2O2 production within tumor microenvironment inversely correlated with infiltration of CD56(dim) NK cells in gastric and esophageal cancer: possible mechanisms of NK cell dysfunction. | Izawa S, Kono K, Mimura K, Kawaguchi Y, Watanabe M, Maruyama T, Fujii H | 第一外科 |
| 67 | J Pharmacol Exp Ther, 339(1), 93-98 | Glycyrrhizin prevents liver injury by inhibition of high-mobility group box 1 production by Kupffer cells after ischemia-reperfusion in rats. | Ogiku M, Kono H, Hara M, Tsuchiya M, Fujii H | 第一外科 |
| 68 | Journal of Surgical Research, 169, 106-116 | Role of Macrophage Colony-Stimulating Factor in Polymicrobial Sepsis According to Studies Using Osteopetrotic (op/op) Mice. | Ogiku M, Kono H, Ishii K, Hosomura N, Fujii H | 第一外科 |
| 69 | Hepatology (Epub ahead of print) | Inter-strain differences in liver injury and one-carbon metabolism in alcohol-fed mice. | Tsuchiya M, Ji C, Kosyk O, Shymonyak S, Melnyk S, Kono H, Tryndyak V, Muskhelishvili L, Pogribny IP, Kaplowitz | 第一外科 |
| 70 | General Thoracic and Cardiovascular Surgery :59(8):553-558:2011 | Treatment of prosthetic valve endocarditis complicated by destruction of the aortic annulus | Yuki OKAMOTO, Kenji MINAKATA, Tomoyuki YUNOKI, Masatake KATSU, Shinichiro CHINO, Masahiko | 第二外科 |
| 71 | Orthopedics. 2011 Jul 7;34(7):e324-7 | Lumbar ligamentum flavum hematoma treated with endoscopy. | Ohba T, Ebata S, Ando T, Ichikawa J, Clinton D, Haro H | 整形外科 |
| 72 | Orthopedics. 2011 Jun 14;34(6):233 | Symptomatic spinal epidural lipomatosis with severe obesity at a young age. | Ohba T, Saito T, Kawasaki N, Maekawa S, Haro H. | 整形外科 |
| 73 | JBJS Case Connector, Jul 2011; 01(01); e2 1-5 | Fulminant Clostridium Difficile Colitis After Surgical Treatment of Cervical Destructive Spondyloarthropathy: A Case Report | Ohba T, Ebata S, Ando T, Haro H, Ichikawa J, Clinton D, Kondo T. | 整形外科 |
| 74 | Antioxid Redox Signal 15(14):1505-1517 | Oxidative Stress in Ischemic Brain Damage: Mechanisms of Cell Death and Potential Molecular Targets for Neuroprotection. | Chen H, Yoshioka H, Kim GS, Jung JE, Okami N, Sakata H, Maier CM, Narasimhan P, Goeders CE, Chan PH | 脳神経外科 |
| 75 | J Neurosurg 114(4):1054-6 | Indocyanine green videoangiography to detect aneurysm and related vascular structures buried in subarachnoid clots. | Kuroda K, Kinouchi H, Kanemaru K | 脳神経外科 |
| 76 | Neuroreport 11(22):385-390 | Effects of valsartan on neuroprotection and neurogenesis after ischemia. | Wakai T, Yoshioka H, Yagi T, Kato T, Kinouchi H | 脳神経外科 |
| 77 | 脳神経外科ジャーナル 20(7):484-490 | UCAS IIにおける未破裂脳動脈瘤治療成績:中間報告—日本における未破裂脳動脈瘤治療の現状とスタンダードの追及— | 森田明夫, UCAS II 研究者グループ, 金丸和也, 木内博之 | 脳神経外科 |
| 78 | British Journal of Cancer 103(4):552-559 | Inverse correlation of HER2 with MHC class I expression on esophageal squamous cell carcinoma. | Maruyama T, Mimura K, Watanabe M, Mizukami Y, Kawaguchi Y, Ando T, Kinouchi H, Fujii H, Kono K | 脳神経外科 |
| 79 | 脳神経外科ジャーナル 20(8):559-565 | Oxidative Stress and Mitochondrial Dysfunction in Neurovascular Injury After Stroke. | Yoshioka H, Sakata H, Okami N, Kinouchi H, Chan PH | 脳神経外科 |
| 80 | Clinical Neurosurgery 58:84-92 | Surgery on Intracranial Aneurysms Under Simultaneous Microscopic and Endoscopic Monitoring | Nishiyama Y, Kinouchi H, Horikoshi T | 脳神経外科 |
| 81 | BRAIN RESEARCH 8(1422):39-45 | Activation of signal transducers and activators of transcription 3 in the hippocampal CA1 region in a rat model of global cerebral ischemic preconditioning. | Yagi T, Yoshioka H, Wakai T, Kato T, Horikoshi T, Kinouchi H | 脳神経外科 |
| 82 | 脊髄外科 SPINAL SURGERY 25(3):268-273 | SF-36を用いた頸椎症手術症例の包括的健康度に関する検討 | 堀越 徹, 内田 幹人, 三塚 健太郎, 仙北谷 伸朗, 木内 博之 | 脳神経外科 |
| 83 | AJNR Am J Neuroradiol 33(2):388-92 | Evaluation of cervical myelopathy using apparent diffusion coefficient measured by diffusion-weighted imaging. | Sato T, Horikoshi T, Watanabe A, Uchida M, Ishigame K, Araki T, Kinouchi H | 脳神経外科 |
| 84 | 麻酔 60:947-949 | 周術期の疼痛管理に硬膜外自己調節鎮痛と静脈内自己調節鎮痛を併用した直腸癌の1症例 | 熊倉康友, 石山忠彦, 飯嶋哲也, 山口敏昭, 菅原健, 小口健史, 松川隆 | 麻酔科 |
| 85 | Journal of Anesthesia 25(4):576-579 | The usefulness of an earphone-type infrared tympanic thermometer during cardiac surgery with cardiopulmonary bypass: clinical report | Taishi MASAMUNE, Masanori YAMAUCHI, Keiichi WADA, Hironobu WASHITA, Katsumi OKUYAMA, Hiroshi Ino, Michiaki YAMAKAGE, Tadahiko ISHIYAMA, | 麻酔科・手術部 |
| 86 | 日本小児麻酔学会誌 | 硬膜外穿刺予防・成功率向上のためのエコーガイド下仙骨硬膜外麻酔の検討 | 中橋陽介, 近藤陽一, 石山忠彦, 遠藤悟史, 伊藤佑之, 鈴木康之 | 麻酔科 |
| 87 | 麻酔 61(1):85-87 | 体温 | 岩下博宣, 松川隆 | 麻酔科 |
| 88 | Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia Vol.25.No6 p1086-1091 | High-Dose Insulin Administration Improves Left Ventricular Function After Coronary Artery Bypass Graft Surgery | Hiroaki SATO, Roupen Hatzakorzian, George Carvalho, Tamaki SATO, Ralph Lattermann, Takashi MATSUKAWA, Thomas | 麻酔科 |
| 89 | Journal of Anesthesia 26(5):103-106 | Cardiac arrest after spinal anesthesia in a patient with neurally mediated syncope | Tadahiko Ishiyama, Kazuhiro Shibuya, Yoshihide Terada, Hironobu Iwashita, Taishi Masamune, Masakazu | 手術部・麻酔科 |

| No. | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----|---|---|---|------|
| 90 | 関東連合産科婦人科学会誌; 48(4):405-409 | 当院における過去10年間の卵管卵巣膿瘍62例に関する検討 Tubo-ovarian abscess: a study of 62 cases during past 10 years | 朝田嘉一,大森真紀子,多賀谷光,和田麻美子,大木麻喜,深澤宏子,正田朋子,奈良政敏,笠井剛,端晶彦,平田修司 | 産婦人科 |
| 91 | Int J Gynecol Cancer;21(7):1287-1296 | Preoperative differential diagnosis of minimal deviation adenocarcinoma and lobular endocervical glandular hyperplasia of the uterine cervix: a multicenter study of clinicopathology and magnetic resonance imaging findings | Akiko Takatsu, Tanri Shiozawa, Tsutomu Miyamoto, Kaz Kazuko Kurawasa, Tsunehisa Kaku, Yoshiki Mikami, Takako Kiyokawa, Hitoshi Tsuda, Keiko Ishii, Kaori Togashi, Takashi Koyama, Yasunari Fujinaga, Masumi Kadoya, Akihiko | 産婦人科 |
| 92 | Apoptosis;16(6):627-635 | PI3 Kinase inhibition on TRAIL-induced apoptosis correlates with androgen-sensitivity and p21 expression in prostate cancer cells | Kadowaki Yoshihiko, Chari NS, Akihiko HASHI, Teo AE, Spurgers KB, McDonnell TJ | 産婦人科 |
| 93 | Journal of Urology, 186:2463-2469, 2011 | Bladder outlet obstruction induced expression of prostaglandin E2 receptor subtype EP4 in the rat bladder: a possible counteractive mechanism against detrusor overactivity. | Masanori Beppu, Isao Araki, Mitsuharu Yoshiyama, DU SHUQI, Hideki Kobayashi, Hidenori Zakoji, Masayuki Takeda | 泌尿器科 |
| 94 | Journal of Biological Chemistry, 286(48): 41552-41562, 2011 | Reciprocal regulation between proinflammatory cytokine-induced inducible NO synthase (iNOS) and connexin 43 in bladder smooth muscle cells. | LI Kai, Jian YAO, Liye Shi, Norifumi SAWADA, Yuan Chi, Qiaojing Yan, Hiroyuki Matsue, Masanori KITAMURA, Masayuki Takeda | 泌尿器科 |
| 95 | Journal of Urology, 186: 2419-2425, 2011 | Decreased Expression of the Epithelial Ca ²⁺ Channel TRPV5 and TRPV6 Human Cell Carcinoma: Associated With Vitamin D Receptor. | Wu Yong Yang, Tatsuya Miyamoto, LI Kai, Hiroshi Nakagomi, Norifumi SAWADA, Satoru, Kira, Hideki Kobayashi, Hidenori Zakoji, Takayuki Tsuchida, Mizuya Fukasawa, Isao Araki, Masayuki Takeda | 泌尿器科 |
| 96 | J. Pharmacol. Exp. Ther., 339(1): 257-266, 2011 | Nonsteroidal anti-inflammatory drug flufenamic acid is a potent activator of AMP-activated protein kinase. | Yuan Chi, Kai Li, Qiaojing Yan, Shuichi Koizumi, Liye Shi, Shuhei Takahashi, Ying Zhu, Hiroyuki Matsue, Masayuki Takeda, Masanori Kitamura, | 泌尿器科 |
| 97 | LUTS, 3(2): 64-68, 2011 | Muscarinic receptor binding of imidafenacin in the human bladder mucosa and detrusor and parotid gland. | Masanao Seki, Masaki Ogoda, Shiori Kuraoka, Atsushi Otsuka, Seiichiro Ozono, Masayuki Takeda, Keisuke Masuyama, Isao Araki, Shizuo | 泌尿器科 |
| 98 | Urology, 78(1): 126-133, 2011 | Solifenacin as add-on therapy for overactive bladder symptoms in men treated for lower urinary tract symptoms-assist, randomized controlled study. | Osamu Yamaguchi, Hidenori Kakizaki, Yukio Homma, Masayuki Takeda, Osamu Nishizawa, Momokazu Gotoh, Osamu Yokoyama, Narihito Seki, Masaki Yoshida | 泌尿器科 |
| 99 | Urology, 78(3): 721.e7-721.e12, 2011 | Characterization of muscarinic receptors in the human bladder mucosa: Direct quantification of subtypes using 4-DAMP mustard. | Akira Yoshida, Masanao Seki, Sweety Nasrin, Atsushi Otsuka, Seiichiro Ozono, Masayuki Takeda, Keisuke Masuyama, Isao Araki, Frederick J Ehlert, | 泌尿器科 |
| 100 | LUTS, 3(1): 43-50, 2011 | Efficacy, Safety and Tolerability of Fesoterodine in Asian Patients with Overactive Bladder. | Osamu Yamaguchi, Osamu Nishizawa, Masayuki Takeda, Masaki Yoshida, Myung-Soo CHOO, Jeong GU LEE, Alex Tong-Long Lin, Ho-Hsiung Lin, Wai-Chun Andrew Yip, Hitosh | 泌尿器科 |
| 101 | LUTS, 3(1): 29-35, 2011 | Randomized controlled trial to treat benign prostatic hyperplasia with overactive bladder using an alpha-blocker combined with anticholinergics. | Osamu Nishizawa, Osamu Yamaguchi, Masayuki Takeda, Osamu Yokoyama | 泌尿器科 |
| 102 | LUTS, 3(2): 64-68, 2011 | Muscarinic Receptor Binding of Imidafenacin in the Human Bladder Mucosa and Detrusor and Parotid Gland. | Masanao Seki, Masaki Ogoda, Shiori Kuraoka, Atsushi Otsuka, Seiichiro Ozono, Masayuki Takeda, Keisuke Masuyama, Isao Araki, Shizuo | 泌尿器科 |
| 103 | LUTS, 3(2):79-85, 2011 | Early efficacy of an α 1 adrenoceptor antagonist, naftopidil, against lower urinary tract symptoms suggestive of benign prostatic hyperplasia. | Osamu Ishizuka, Osamu Nishizawa, Masayuki Takeda, Teruhisa Nomura, Susumu | 泌尿器科 |
| 104 | BJU Int., 108(1): 100-107, 2011 | Predictive factors for the effect of the α 1-D/A adrenoceptor antagonist naftopidil on subjective and objective criteria in patients with neurogenic lower urinary tract dysfunction. | Masayuki Takeda, Yukio Honma, Isao Araki, Hidehiro Kakizaki, Tomonori Yamanishi, Takashi Yokota, Momokazu Gotoh, Yasuhiko Igawa, Narihito Seki, Mineo Takei, Masaki Yoshida, Kimio Sugaya, | 泌尿器科 |
| 105 | Urology, 77(1): 60-64, 2011 | Female Urology Assessment of overactive bladder symptoms: comparison of 3-Day bladder diary and the overactive bladder symptoms score. | Yukio Honma, Hidehiro Kakizaki, Osamu Yamaguchi, Tomonori Yamanishi, Osamu Nishizawa, Osamu Yokoyama, Masayuki Takeda, Narihito Seki, Masaki Yoshida | 泌尿器科 |

| No. | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----|---|--|--|-------------|
| 106 | Annual Meeting of American Urological Association, Surgery Video Series, 2011 | Intraoperative fluoroscopic monitoring during tension-free vaginal mesh surgery: safe procedure even for beginners. | Hideki Kobayashi, Norifumi Sawada, Satoru Kira, Yaburu Haneda, Hidenori Zakohji, Takayuki Tsuchida, Isao Araki, Masayuki Takeda. | 泌尿器科 |
| 107 | Neutourol., Urodyn., 31:293-299, 2012. | How does the urothelium affect bladder function in health and disease?: ICI-RS 2011. | Birder, L.A., Ruggieri, M., Takeda, M., Koeveringe, G van, Veltkamp, S., Korstanje, C., Parson, B., Fry, C.H. | 泌尿器科 |
| 108 | Neurourol., Urodyn., 2012 [Epub ahead of print]. | Re: NAU-11-0242-mechanism of action of botulinum neurotoxins, beta3-adrenergic receptor agonists and PDE5 inhibitors in modulating detrusor function on overactive bladders. | Takeda, M | 泌尿器科 |
| 109 | Jpn J Ophthalmol 55(5):472-479 | Comparison of the anterior ocular segment measurements using swept-source optical coherent tomography and a scanning peripheral anterior chamber depth analyzer | Furuya T, Mabuchi F, Chiba T, Kogure S, Tsukahara S, Kashiwagi K, | 眼科 |
| 110 | Mol Vis 17:792-796 | Investigation of the association between SLC1A3 gene polymorphisms and normal tension glaucoma | Yasumura R, Meguro A, Ota M, Nomura E, Uemoto R, Kashiwagi K, Mabuchi F, Iijima H, Kawase K, Yamamoto T, Nakamura M, Negi A, Sagara T, Nishida T, Inatani M 他 | 眼科 |
| 111 | Jpn J Ophthalmol 55(3):241-247 | Classic choroidal neovascularization developing after photodynamic therapy in eyes with polypoidal choroidal vasculopathy | Imasawa M, Sakurada Y, Iijima H | 眼科 |
| 112 | Ophthalmology 118(7):1402-1407 | Role of complement factor H162V and age-related maculopathy susceptibility 2 A69S variants in the Clinical expression of polypoidal | Sakurada Y, Kubota T, Imasawa M, Mabuchi F, Tababe N, Iijima | 眼科 |
| 113 | IOVS 52(7):4626-4629 | Association between SRBD1 and ELOVL5 gene polymorphisms and primary open-angle glaucoma | Mbuchi F, Sakurada Y, Kashiwagi K, Yamagata Z, Iijima | 眼科 |
| 114 | Am J Ophthalmol 152(3):499 | Polymorphisms in ARMS2(LOC387715) and LOXL1 genes in the Japanese with age-related macular degeneration | Sakurada Y, Mabuchi F, Yoneyama S, Kubota T, Iijima H, | 眼科 |
| 115 | Methods Inf Med 50:427-434 | A remote operating slit lamp microscope system. Development and its utility in ophthalmologic examinations | Tanabe N, Go K, Sakurada Y, Imasawa M, Mabuchi F, Chiba T, Abe K, Kashiwagi K | 眼科 |
| 116 | あたらしい眼科 28(5):719-722 | Reverse pupillary block を合併した中心前房深度が深い閉塞隅角緑内障 | 小倉 拓, 間瀬文彦, 柏木賢 | 眼科 |
| 117 | Jpn J Ophthalmol 55(3):310-311 | Intravitreal intrusion of an intrascleral MIRAgel bucking implant | Hatori T, Imai M, Iijima H | 眼科 |
| 118 | 臨床眼科 66(4):487-490 | エキシマレーザー治療的角膜切除術の治療成績 | 高橋博, 帯敬太郎, 阿蘇仁志, 齊藤 森, 飯島裕幸 | 眼科 |
| 119 | Auris Nasus Larynx. | Examination, diagnosis and classification for Japanese allergic rhinitis: Japanese guideline. | Fujieda S, Kurono Y, Okubo K, Ichimura K, Enomoto T, Kawachi H, Masuyama K, Goto M, Suzuki H, Okamoto Y, | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| 120 | Allergol Int. 61(1):155-62 | A randomized control trial of stepwise treatment with fluticasone propionate nasal spray and fexofenadine hydrochloride tablet for seasonal allergic rhinitis. | Takahashi G, Matsuzaki Z, Okamoto A, Ito E, Matsuoka T, Nakayama T, | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| 121 | Allergol Int. 60(4):491-6 | Clinical epidemiological study of 553 patients with chronic rhinosinusitis in Japan. | Yoshimura K, Kawata R, Haruna S, Moriyama H, Hirakawa K, Fujieda S, | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| 122 | Urology. 78(3):721.e7-721.e12 | Characterization of muscarinic receptors in the human bladder mucosa: direct quantification of subtypes using 4-DAMP mustard. | Yoshida A, Seki M, Nasrin S, Otsuka A, Ozono S, Takeda M, Masuyama K, Araki I, Ehrlert | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| 123 | Int Arch Allergy Immunol. 156(2):187-95 | Immune regulation by CD4+CD25+ regulatory T cells in patients with Japanese cedar pollinosis. | Yamanishi T, Chikamatsu K, Takahashi G, Endo S, Masuyama K | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| 124 | Head Neck. 34(3):336-43 | Resistance to apoptosis-inducing stimuli in CD44+ head and neck squamous cell carcinoma cells. | Chikamatsu K, Ishii H, Takahashi G, Okamoto A, Moriyama M, | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| 125 | Japanese Journal of Radiology 29:639-643 | A acoustic radiation force impulse elastography of the liver: can fat deposition in the liver affect the measurement of liver stiffness? | Utarou MOTOSUGI, Tomoaki, ICHIKAWA, Yoshibumi NIITSUMA | 放射線科 |
| 126 | Investigative Radiology 46(6):359-365 | Distinguishing Hepatic Metastasis From Hemangioma Using Gadoteric Acid-Enhanced Magnetic Resonance Imaging | Utaroh MOTOSUGI, Tomoaki ICHI KAWA, Kojiro ONOHARA, Hironob | 放射線科 |
| 127 | Japanese Journal of Radiology 29(6):405-412 | Determination of a standard deviation that could minimize radiation exposure in an automatic exposure control for pulmonary thin-section computed tomography | Atushi NANBU, Eiichi SAWADA, Satoshi KATO, Tsutomu ARAKI, | 放射線科 |
| 128 | Radiology 260(2):446-453 | Detection of pancreatic carcinoma and liver metastases with gadoteric acid-enhanced MR imaging: comparison with contrast-enhanced multi-detector row CT | Utaroh MOTOSUGI, Tomoaki ICHIKAWA, Hiroyuki MORISAKA, Hironobu SOU, Ali Muhi, Kazufumi KIMURA, Katuhiro | 放射線科 |
| 129 | Radiation Oncology 6:137 | Rib fracture after stereotactic radiotherapy on follow-up thin-section computed tomography in 177 primary lung cancer patients | Atsushi NAMBU, Hiroshi ONISHI, Shinichi AOKI, Tsuyota KOSHISHI, Kengo KURIYAMA, Takafumi KOMIYAMA, Kan MARINO, Masaaki ARAYA, Ryo SAITOU, Rihito TOMINAGA, Yoshiyasu MAEHATA, Eiichi SAWADA, Tsutomu ARAKI | 放射線科 |

| No. | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----|---|---|---|-----------|
| 130 | Magnetic Resonance Imaging 29(8):1047-1052 | Staging liver fibrosis by using liver-enhancement ratio of gadoxetic acid-enhanced MR imaging: comparison with aspartate aminotransferase-to-platelet ratio index | Utaroh MOTOSUGI,Tomoaki ICHI KAWA,Mitsuhiko OGURI,Katuhiro SANO,Hironobu SOU,Ali Muhi, | 放射線科 |
| 131 | Japanese Journal of Radiology 29(9):639-643 | Acoustic radiation force impulse elastography of the liver: can fat deposition in the liver affect the measurement of liver stiffness? | Utaroh MOTOSUGI,Tomoaki ICHIKAWA,Yoshibumi NIITSUMA | 放射線科 |
| 132 | Radiology 261(3):834-844 | Imaging Study of Early Hepatocellular Carcinoma: Usefulness of Gadoxetic Acid-enhanced MR Imaging | Katsuhiko SANO,Tomoaki ICHIKAWA,Utaroh MOTOSUGI ,Hironobu SOU,Ali Muhi,Masanori MATSUDA,Masayuki NAKANO, Michie SAKAMOTO,Tadao NAKAZAWA,Masami | 放射線科 |
| 133 | Japanese Journal of Interventional Radiology 27(1):33-40 | ミブプラチン・リビオドール懸濁液を使用した肝細胞癌の肝動脈化学塞栓療法における有害事象および短期治療効果-シスプラチン・リビオドール懸濁液との比較- | 荒木 拓次,岡田 大樹,木村 一史,澤田 栄一,佐野 勝廣,荒木 力 | 放射線科 |
| 134 | Contributions to Nephrology 173:182-90 | Comparison of Efficacy between Continuous Hemodiafiltration with a PMMA High-Performance Membrane Dialyzer and a PAN Membrane Hemofilter in the Treatment OF Septic Shock Patients with Acute Renal | Matsuda K,Moriguchi T,Harui N,Yanagisawa M,Harada D,Sugawara H | 救急部・集中治療部 |
| 135 | PATHOLOGY INTERNATIONAL, 61(10):615-617 | Massive myoepithelial proliferation (myoepitheliosis) with lumpy deposits of basement membrane material closely associated with apocrine adenosis and ductal carcinoma in situ of the breast | Tomonori KAWASAKI,Toshio Oyama,Hiroshi Nakagomi,Kazushige Furuya,Tetsuo KONDO,Tadao NAKAZAWA,Kunio MOCHIZUKI,Tetsu YAMANE,Tomomi Miyazawa, Yoshio ISHII,Kimiyo Fukushima, | 人体病理学 |
| 136 | HUMAN PATHOLOGY, In Press | Global histone modification of histone H3 in colorectal cancer and its precursor lesions | Tadao NAKAZAWA,Tetsuo KONDO,Def MA,Kunio MOCHIZUKI,Tomonori KAWASAKI,Tetsu YAMANE, Hiroshi IINO,Hideki FUJII, Ryohei KATOH | 人体病理学 |
| 137 | JOURNAL OF CLINICAL PATHOLOGY 64(6):549-551 | Microinvasive neuroendocrine carcinoma arising from central papilloma of the breast | Tomonori KAWASAKI,Seigo Nakamura,Goi Sakamoto,Tetsuo KONDO,Hiroko Tsunoda-Shimizu, Yoshio ISHII,Tadao NAKAZAWA, Kunio MOCHIZUKI,Tetsu | 人体病理学 |
| 138 | DIAGNOSTIC CYTOPATHOLOGY, 39(3):218-222 | Fine-needle aspiration biopsy of low-grade cribriform cystadenocarcinoma of the salivary gland | Tadao NAKAZAWA,Tetsuo KONDO,Tsutomu YUMINAMO CHI,Kumiko NAKAZAWA, Yoshio ISHII,Kunio MOCHIZUKI, Tomonori KAWASAKI,Tetsu YAMANE,Masanori MIYATA, Utarou MOTOSUGI,Ryohei | 人体病理学 |
| 139 | CYTOPATHOLOGY, 22(1):43-49 | Neuroendocrine ductal carcinoma in situ of the breast: cytological features in 32 cases | Tomonori KAWASAKI,Seigo Nakamura,Goi Sakamoto,Tetsuo KONDO,Hiroko Tsunoda-Shimizu,Yoshio ISHII,Tadao NAKAZAWA,Kunio MOCHIZUKI,Tetsu YAMANE,Masayuki INOUE,Shingo INOUE,Ryohei | 人体病理学 |
| 140 | PATHOLOGY INTERNATIONAL 61(1):49-51 | Is CD56 a specific and reliable neuroendocrine marker for discriminating between endocrine/neuroendocrine ductal carcinoma in situ and intraductal papilloma of the breast? | Tomonori KAWASAKI,Tetsuo KONDO,Tadao NAKAZAWA, Kunio MOCHIZUKI,Tetsu YAMANE,Shin-ichi MURATA, Shingo INOUE,Hiroko Tsunoda, Ryohei KATOH, | 人体病理学 |
| 141 | 癌診療指針のための病理診断ブックティス-乳癌-, 117-127 | 上皮性腫瘍-癌および境界病変 神経内分泌癌 neuroendocrine carcinoma | 川崎 朋範,加藤 良平 | 人体病理学 |
| 142 | Japanese Journal of Radiological Technology 2011, 67 (11), 1454-1460. | Interventional Radiology-Computed Tomographyアンギオシステムにおける肝動脈CT撮影条件の最適化 | 大島信二 坂本肇 小林寛 佐藤兼是 馬場貴之 相川良人 佐野芳知 | 放射線部 |
| 143 | Chem. Pharm. Bull., 59(10), 1299-1302 | Molecular States of p-Dimethylaminobenzonitrile Coground with b-Cyclodextrin Investigated Using Solid-State Fluorescence Spectroscopy | Inoue Y., Hasegawa N., Tozuka Y., Yonemochi E., Oguchi T., Higashi K., Moribe K., Yamamoto K | 薬剤部 |
| 144 | Int. J. Pharmaceut., 420, 191-197 | Guest Molecular Size-Dependent Inclusion Complexation of Parabens with Cholic Acid by Cogrounding | Moribe K., Masaki M., Kinoshita R., Zhang J., Limwikrant W., Higashi K., Tozuka Y., Oguchi T., | 薬剤部 |

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

| | |
|---------|-----------------------|
| 管理責任者氏名 | 病院長 島田 眞路 |
| 管理担当者氏名 | 総務課長・小林 義彦、医事課長・高山 俊雄 |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|--|--|---------------------------|---|
| 診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | | 病歴室 看護部 薬剤部 各診療科 | カルテ及び検査所見記録等は 1 患者 1 ファイルで、すべて病歴室で一元管理している。 |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 総務課 | |
| | 高度の医療の提供の実績 | 医事課 | |
| | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 総務課 | |
| | 高度の医療の研修の実績 | 総務課 | |
| | 閲覧実績 | 総務課 | |
| | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医事課 | |
| | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医事課 薬剤部 | |
| 第規一則号第に一掲条のる十体一制第一確項保各の号状及び第九条の二十三第一項 | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 安全管理室 | 病院の管理及び運営に関する諸記録は、左の保管場所で保管管理している。 |
| | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 安全管理室 | |
| | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 安全管理室 | |
| | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 安全管理室 | |
| | 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | 安全管理室 | |
| | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 感染制御室 | |
| | 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | 安全管理室 | |
| | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 安全管理室 | |

| | | 保管場所 | 分類方法 |
|------------------|---|---|--------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則 | 院内感染のための指針の策定状況 | 感染制御室 |
| | 第一条 | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 総務課 |
| | 第十一条 | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 総務課 |
| | 第一項 | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 感染制御室 |
| | 各号及び第九條の二十三 | 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | 薬剤部 |
| | 第一項 | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 薬剤部 |
| | 第一号に掲げる体制の確保の状況 | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | MEセンター |
| | | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | MEセンター |
| | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | MEセンター | |
| | 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | MEセンター | |

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | |
|-------------|-----------------------|
| 閲覧責任者氏名 | 病院長 島田 眞路 |
| 閲覧担当者氏名 | 総務課長・小林 義彦、医事課長・高山 俊雄 |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 総務課、医事課 |

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | |
|-----------|--------|------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 7件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延 件 |
| | 歯科医師 | 延 件 |
| | 国 | 延 3件 |
| | 地方公共団体 | 延 4件 |

○紹介患者に対する医療提供の実績

| | | | |
|------|-----------------------|------|----------------------|
| 紹介率 | 79.9% | 算定期間 | 平成23年4月1日～平成24年3月31日 |
| 算出根拠 | A：紹介患者の数 | | 11,769人 |
| | B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | | 5,753人 |
| | C：救急用自動車によって搬入された患者の数 | | 898人 |
| | D：初診の患者の数 | | 17,314人 |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保状況

| | |
|--|--------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 有・無 |
| <p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 医療機関における安全管理に関する基本的考え方<ul style="list-style-type: none">・医療安全の基本的考え方(2) 医療機関に係る安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項<ul style="list-style-type: none">・安全管理の体制を確保するために、安全管理委員会及び安全管理室の設置・医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の設置・安全管理のための責任者（リスクマネジャー）を定め、病院の安全管理の体制確保に努める(3) 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針<ul style="list-style-type: none">・安全体制の確保のために、職員研修の企画・実施(4) 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針<ul style="list-style-type: none">・「医療事故等発生報告書」「状況報告書」「インシデントレポート」の入力、報告及び対策・安全管理のためのマニュアルを整備し、安全管理委員会に届け出る(5) 医療事故等発生時の対応に関する基本方針<ul style="list-style-type: none">・事故発生時の対応マニュアルの整備および事故発生時の対応(6) 医療従業者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。）<ul style="list-style-type: none">・患者への情報提供(7) 患者からの相談への対応に関する基本方針<ul style="list-style-type: none">・患者相談対応 | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 年 13 回 |
| <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 安全管理体制の整備，安全管理のためのマニュアル整備(2) 医療事故等の防止及び発生時の対応(3) 使用する医薬品，医療機器の安全管理(4) 安全管理のための職員研修(5) 患者に重篤な傷害が生じた場合の対応，原因分析，改善策の立案・実施，職員への周知(6) 立案した改善策の実施状況の調査及び見直し。(7) 医療従事者と患者との情報の共有(8) 患者からの相談への対応 | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年 8 回 |
| <p>・研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 安全管理体制講演会・・・3回(2) 医療安全活動報告会・・・2回(3) 事例検討会・・・3回 | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <p>・医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 『インシデントレポートシステム』による運用を行っており、インシデントレポートの第 1 報が入力されると、あらかじめ決められた安全管理室員（①室員）が内容を把握し、関連する部門のリスクマネジャーに情報を伝える。情報を受けた各リスクマネジャーはインシデントの状況確認及び原因 | |

の詳細説明，再発防止策を検討し，第2報として報告する。第2報は，担当する安全管理室員（②室員）が内容を検討し，内容が不十分な場合は担当のリスクマネージャーに差し戻し再検討を依頼する。十分の場合は保存レポートとして終了する。

(2) 提出された内容に基づき，重要事例について安全管理委員会及び安全管理室会議において組織としてのインシデントの分析及び問題点を検討する。必要に応じて部署事例検討会を開催し，より実践に即した具体的分析・検討を行う。

(3) 上記で検討された内容に対し，重要事例について安全管理室会議，安全管理委員会で改善策が検討され，その結果はリスクマネージャー会議で報告及び意見交換され，「リスクマネージャー会議便り」として各部署に報告・周知を行ない実行に移している。特に重要と考えられるインシデントについては，インシデント内容，改善策等をリスクマネージャーニュースとして発行し周知徹底している。また必要に応じてゼネラルリスクマネージャーが直接指導し実行に移している。

| | |
|-------------------------|----------|
| ⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | 有 (2名)・無 |
| ⑥ 専任の院内感染対策を行う者の設置状況 | 有 (1名)・無 |
| ⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | 有・無 |

・所属職員： 専任（ 2 ）名 兼任（ 25 ）名

・活動の主な内容：

- (1) 安全管理委員会及び医療事故調査委員会に関する事項
- (2) 事故等に関する診療録及び看護記録等への記載が正確かつ十分にされているかの確認及び必要な指導
- (3) 事故発生時の患者及び家族への対応状況の確認及び必要な指導
- (4) 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び必要な指導
- (5) 医療安全に係る連絡調整に関する事項
- (6) インシデントレポート及び状況報告書の確認
- (7) インシデント等に関する調査及び分析
- (8) 改善策の検討及び策定
- (9) 職員に対する情報提供
- (10) 改善策の実施状況の監視及び指導
- (11) 医療事故防止マニュアルの見直し
- (12) 安全対策に関する教育の企画及び実施

| | |
|--------------------------------------|-----|
| ⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 有・無 |
|--------------------------------------|-----|

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|---------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | (有)・無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容：委員会等の整備，感染対策マニュアルの整備，リンクドクター・リンクナースの配置，院内感染発生時の対応，インフォームドコンセント，報告の義務，職員研修の実施，指針の閲覧に関する事項など | |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年 1 2 回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容：①定例会議・緊急会議の開催 ②感染症サーベイランスの実施・評価 ③感染症アウトブレイク ④感染対策の実施状況の調査・指導 ⑤感染対策に関する教育啓蒙活動(職員・学生) ⑥感染コンサルテーション ⑦職員への職業感染対策推進 ⑧感染対策に関する情報収集 ⑨感染性廃棄物処理の監視及び指導 ⑩感染対策マニュアルの更新 | |
| ③ 従事者に対する院内感染対策のための実施状況 | 年 2 回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容：①「新型インフルエンザ：第 1 波・第 2 波の総括と今後の対策」 ②「病院における感染制御の位置づけ」 | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ①感染対策委員会・感染制御室会議・感染対策チーム会議における方策の検討・決定・実施 ②院内ラウンドの実施及び指導 ③感染対策チーム員を通して重要事項を各部署へ伝達するとともに、各部署からの意見・質問を収集した後、会議で検討し再度チーム会議において周知を行なう。 ④感染対策マニュアルの見直し・改訂 | |

(様式 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|-----|
| ① 医薬品の使用に係る安全のため責任者の配置状況 | 有 無 |
| ② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年4回 |
| ・研修の主な内容 ・研修の主な内容 1 新採用者職員研修 2 薬剤管理に関する講習会 3 抗菌薬の使い方講習会 (医師) 4 注射薬静脈内注射に関する研修会 (看護師) | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | |
| ・手順書の作成 (有 ・ 無) ・業務の主な内容： 医薬品安全管理手順書を医薬品安全管理小委員会で見直し、検討を行う。 医薬品安全管理手順書どおり業務が行われているか、年2回チェックする。 | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策 | |
| ・医薬品に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無) 1 その他の改善のための方策の主な内容 ・ 医薬品情報室に専任の薬剤師を配置している。 ・ 機構のホームページにて最新の添付文書を閲覧している。 ・ MRに変更添付文書の提出を依頼している。 ・ 調剤棚や注射薬棚に添付文書を保管し、薬品補充時に添付文書変更があれば差し替えている。 ・ 企業より添付文書集を入手し、D I 室および調剤室に保管している 2 周知方法 ・ 薬剤部にて医薬品情報やD I - B O - Xなどの情報誌に編集し、院内・医療関係者に配布している。 この情報はオーダーリングシステムの電子掲示板に掲載し、バックナンバーを参照できるようにしている。 ・ 特定の診療科に対して重要な情報は、当該診療科により詳細な情報を提供している。 ・ 重大な副作用発現など重大な情報は、これまでに使用した医師を処方歴から調査し、医師個人宛に情報提供している。 ・ 病院全体に提供すべき重大な情報について、既読者リストを貼付し、情報を読んだ者の氏名を記載してもらい返送をお願いし、未読者に連絡する。 ・ 医薬品集を定期的に発行している。 | |

(様式 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|--|
| ① 医療機器の安全使用のため責任者の配置状況 | <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 |
| ② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年 6 回 |
| ・研修の主な内容 使用方法、警報発生時の対処方法、始業前点検事項、安全機構、故障・不具合発生時の対応 | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| ・計画の作成 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) | |
| ・保守点検の主な内容： 外観検査、機能条件検査、機械的検査、電気的検査、安全性検査、消耗部品交換 | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策実施状況 | |
| ・医療機器に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) | |
| ・その他の改善のための方策の主な内容 1. インシデントレポート 2. リスクマネージャー会議日より 3. MEセンターからのお知らせ | |